

除去土壌の再生利用等に関する国際原子力機関（IAEA）専門家会合（第2回）

背景・概要

- 福島県内の除染で発生した除去土壌等については、中間貯蔵開始後30年以内に、県外最終処分することとしている。最終処分量を低減するため、政府一体で、除去土壌等の減容・再生利用等に取り組んでいるところ。
- 本会合は、環境省の要請により、今後の除去土壌の再生利用と必要な最終処分等に係る環境省の取組に対し、技術的・社会的観点から国際的な評価・助言等を行う目的で、国際原子力機関（IAEA）が実施するもの。
- 第2回を本年10月にIAEA本部において開催。計3回程度の会合を開催の上、IAEAにおいて最終報告書が取りまとめられる予定。なお、第1回は本年5月に日本で開催された。

第2回会合の概要

○日程・場所

日程：令和5年10月23日（月）～27日（金）

主な会場：オーストリア ウィーン IAEA本部会議場（オンライン併用）

○主な議論の内容

- ① 除去土壌の再生利用と最終処分に関する安全性や基準の考え方
- ② 住民等とのコミュニケーションのあり方
- ③ 国際的な情報発信のあり方 など

○専門家会合のメンバー

IAEA 職員及び各国の専門家計10名（裏面参照）



今後の予定

- 第2回の結果は、IAEAによりサマリーレポートが作成され、環境省に提出・公表予定。
- 第3回は2024年の早い時期に開催予定。
- 最終報告書は、第3回終了後、IAEAにより作成され、環境省に提出・公表予定。

除去土壌の再生利用等に関する国際原子力機関（IAEA）専門家会合メンバー

（2023年10月現在）

IAEA 職員

- Ms. Anna Clark: 原子力安全局 廃棄物・環境安全課長
- Mr. Gerard Bruno: 原子力安全局 放射性廃棄物・使用済核燃料管理ユニット長
- Mr. Vladan Ljubenov: 原子力安全局 廃止・修復ユニット長
- Ms. Mathilde Prevost: 原子力安全局 放射性廃棄物・使用済燃料管理ユニット調整官

国際専門家

- Mr. Jon Richards, : 環境保護庁 地域放射線専門官、除染プロジェクトマネージャー（米国）
- Mr. Ray Kemp: 放射性廃棄物管理に関する英国委員会(CoRWM)委員、
環境中の放射線の医学的側面に関する英国委員会(COMARE)委員（英国）
- Ms. Shelly Mobbs: エデン原子力・環境有限会社 放射線防護・環境保護主任専門官（英国）
- Ms. Chantal Mommaert: Bel V 放射線防護・廃棄物・廃炉部門長（ベルギー）
- Mr. Jörg Feinhals: 元DMT GmbH & Co. KG, 放射線防護・放射性廃棄物管理 主席技術者（ドイツ）
- 井上 正 氏: 一般財団法人電力中央研究所 名誉アドバイザー（日本）

全体概要

- IAEA職員（4名）、国際専門家（6名）、国内専門家（産業技術総合研究所 保高徹生研究グループ長）、環境省職員により、除去土壌の再生利用等に関する様々な議題（除去土壌の再生利用と最終処分に関する安全性や基準の考え方、住民等とのコミュニケーションのあり方、国際的な情報発信など）について、5日間に渡って議論。また、オーストリア国内において、放射性物質を含む廃棄物の分別や最終処分に取り組んでいる、サイバースドルフ原子力技術施設の現地調査を実施。
- 環境省からは、第1回会合（2023年5月）以降の事業の進捗や、除去土壌の再生利用・最終処分の制度に関する現段階での検討状況、コミュニケーション手法や情報発信に関する取組の進捗状況、IAEA安全基準への整合性に関する環境省の考え方などについて説明。
- 国際専門家からは、各国（英国、ベルギー、ドイツ、米国）における再生利用や最終処分に関する取組などについて事例を紹介。
- 環境省や各国の取組が共有されるとともに、除去土壌の再生利用や最終処分に関する環境省の取組について、IAEA安全基準に照らした評価に関する議論が深められた。
- 第3回会合は2024年の早い時期に実施予定であり、詳細な日程や議題については、IAEAと調整して決定される予定。